

2019年10月3日から5日までバリ島で開催されたアジア太平洋ヘルニア学会 (APHS)に参加しました。これまでヘルニアの国際学会は2016年に東京で開催された APHS だけでした。しかし、日本ヘルニア学会からの“今後、世界に向けて日本からより多くの情報を発信するには、APHS でのプレゼンスを高める必要があります。JHS より Scholarship を得て、APHS Bali 2019 へ参加することは、非常に名誉なことでもあります。”との1通のメールで、少しでも自分が貢献し、また見聞を広げることができればと思います。思い参加しました。

バリ島だけあって最初に目にした学会会場、また会長がアロハシャツを着た姿はいかにも南国での学会を思わせるものでした。発表で最初に驚いたのが、どの国も手術動画がきれいになったことでした。しかしどの手術動画を見ても日本人の技術に勝るものはありません。また中国からの発表の多さで、ヘルニアの分野でも中国の勢いを感じました。学会内容に関してはヘルニアとはいえ、発表の多くが斬新なアイデアとデザインで研究され、その結果が発表されていました。この点が日本でのヘルニアの発表とは少々異なっている点かと思いました。そして当然のことながら英語なのでこの先の論文文化は目前と思いました。今回の私の発表は2008年から2016年までに大垣市民病院で施行した鼠径部ヘルニア2031例に対して行ったアンケート調査(TAPP、鼠径部切開メッシュ法、鼠径部切開組織法合法の比較検討)の結果でした。結果はアンケートで不満と回答した患者は鼠径部切開メッシュ法、70歳未満、術後合併症の併発、感染、慢性疼痛でしたが、どの術式も80%以上の患者で満足が得られていました。残念ながら小さなモニターのデジタルポスターセッションでの発表のため、おそらくあまり見てもらえなかったと思います。

そして2日目には学会主催のGALA DINNERにも参加し、日本からの先生で一卓を囲ませてもらうことができ、楽しい時間を過ごさせてもらいました。

最近、常に思うことは論文を書くことの重要性だと思います。自分自身の結果を振り返ることもでき、また新たな情報を発信し、形として残すことができると思います。国際学会は当然英語での発表になりますから、論文への近道になると思います。今回の発表も論文文化することで、世界へ情報を発信しようと思っています。

今回 APHS Scholarship をいただき、このような貴重な経験をすることができ日本ヘルニア学会理事長の早川先生をはじめ国際委員会委員長の吉田先生、関係各位に深く感謝致します。今後も日本ヘルニア学会の発展に微力ながら貢献できたらと思っています。